

活動レポート

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会 福岡博史

「平成 23 年度 第 2 回テクニカルスクール」報告

TS 「技術伝達のための言語技術
—なでしこジャパンの秘密を探れ！—」

はじめに

青年技術士交流委員会では、2012 年 1 月 16 日に、「技術伝達のための言語技術—なでしこジャパンの秘密を探れ！」と題したテクニカルスクールを開催しました。

「言語技術」という耳慣れない単語をお聞きになったことがあるでしょうか？筆者が小学生のころの国語の授業は、「漢字書き取り、教科書の音読、作文」と、文章の読み書き練習ばかりさせられていた記憶があります。ところが、先日息子の授業参観に行ったところ、国語の授業で「自分で調べたテーマをみんなの前で発表する」というプレゼントレーニングが行われており、その進歩に驚きを感じました。私たち技術士は、受験の際の面接のみならず、仕事上の打ち合わせなど、多くの場面でプレゼンを行っています。そのために必要なのが「言語技術」と呼ばれる能力なのです。

昨年ドイツで開催された女子サッカー W 杯 2011 で、なでしこジャパンは初優勝を果たしました。その快進撃を支えた力の一つに、監督のダジャレ力ではなく、選手の言語技術トレーニングがあったと言えます。

サッカーと言語技術が何故結びつくのかと疑問に思われる方も多いのではないのでしょうか。例えば、試合後の選手のインタビューでのコメント能力、試合中の選手間での意志疎通など、スポーツでは以外に、「言葉で他人に説明する能力」が重要です。ドイツでは少年サッカーの練習メニューに「言葉で自分のおかれた状況を説明させる」など言語技術のト

レーンがごく当たり前に組み込まれています。この点に注目した日本サッカー協会関係者が、日本でも少年サッカーの指導に言語技術を取り入れる活動を行われてきたのです。

その詳細がまとめられた、「言語技術がサッカーを変える」を読むと、言語技術という能力は、サッカー少年だけでなく、我々技術者にとっても重要な能力であることがおわかりになるかと思います。

コミュニケーション能力、プレゼン能力など、社会人として必須の言語能力は実は、「言語技術」という形でトレーニング方法の研究が教育関係者の中でも進められてきました。そこで、子供の時に言語技術を学校で学べなかった私たちのために、言語技術のトレーニングをさわりだけでもやって見ようと考えたのが、今回のテクニカルスクールなのです。

テクニカルスクールの概要

本テクニカルスクールでは講師として全日本中学校国語教育研究協議会の会長である東京都新宿区立四谷中学校の吉田和夫校長をお招きし、解説とワークショップ形式での演習によって、「言語技術」のスキルアップを図りました。参加者は 22 名です。

講師の吉田先生には今回演習に力を注いで頂き、講義を聞く耳学問よりも、言語技術を体験するプロ



グラムを考案頂きました。簡単な説明の後、早速自己紹介トレーニングの始まりです。1)自分の呼ばれたい名前(あだ名)、2)昨年のキーワード、3)自分の悩みや課題を紙に書き出し、1対1でそれを見せ合いながらの2分間自己紹介を行います。これを人を変えて数回行います。スピーチのための準備はわずか数分。テレビのコメンテーターのように瞬間的なプレゼン能力が求められるトレーニングです。



さらに自己紹介の聞き手にも、うかうか出来ない仕掛けがありました。自己紹介を聞きながら、スピーチに対するコメントを考えてメモしなければならないのです。このコメントには相手のスピーチの良かった点と、もっと良くなるための工夫といったポジティブなメッセージを伝えることが要求され、コメントを考えるだけでも頭をフル回転させなければなりません。

普段、しっかりとした準備の元での打ち合わせや面接には慣れているはずの参加者のみなさんも、この自己紹介トレーニングには戸惑われており、技術士試験の面接なみの緊張感が会場には漂っていました。コメンテーターへの道のりは厳しいものがありますね。

この自己紹介スピーチの様々なねらいを吉田先生にガイダンス頂いた後、再び演習が始まりました。後半の演習は、課題解決型ワークショップとしてワールドカフェと呼ばれる手法を取り入れたものです。参加者はテーブルに4人一組ずつの計5グループに分かれ、その中の一人がホストとなり、テーブル上のシートに、自分が日頃抱えている課題を書き込みます。その課題が解決に向かうためのアイデア、意見をテーブル内のメンバーが出し合い、マインド

マップの様に書き込んでいきます。ここからがワールドカフェ方式のミソです。ある程度話をしたら、ホストを残してメンバーは他のテーブルへと移動し、移った先でまた同様に話し合いをするのです。この移動を数回繰り返す事で会場の参加者は、自然に各テーブルの課題やそれに対する意見を共有していくのです。ディベートのような勝ち負けを競うのではなく、丁寧な対話の積み重ねによって考え方をシェアしていくこのワールドカフェの手法は、情報共有や合意形成といった私たち技術士が直面するコミュニケーション上の課題の解決にもつながる手法でありました。論理的思考によるコミュニケーションよりも、周囲の共感を生むコミュニケーション手法であるところが、3. 11以降の日本社会の空気にもあっているのではないのでしょうか。

しかし、実際にワールドカフェでの意見出しを短時間の中で行うことはやはり難しく、自己紹介以上に、「話を聞いて理解する」、「言葉にする」といった言語技術をみなさん鍛えられていました。



おわりに

このように、盛りだくさんの演習で、参加者のみなさんは普段以上に頭をフル回転させて言語技術を磨かれたことと思います。最後の成果発表の場では皆さん生き生きとスピーチされていました。今回の演習プログラムは講師の吉田先生がこれまで学校教育関係者向けに取り組みされたプログラムを、技術士向けに特別にアレンジ頂いた、貴重な演習メニューでありました。お忙しい中ご準備頂いたことに深く感謝いたします。

先生の熱意と、参加者の知恵熱で、TS終了後も参加者は、熱く言語技術を磨き合ったのでした。